

神戸大学附属図書館震災文庫 サンテレビ映像資料公開を事例にして



神戸大学理事・副学長 大学院人文学研究科教授

奥村 弘

神戸市役所玄関ホール。臨時の無料電話コーナー。避難してきた人たちが連絡の張り紙がいっぱい。

撮影者: 大木本美通 撮影日付: 1995.2.5

『神戸大学震災文庫デジタルギャラリー』

専門は日本史、近代地域社会の形成史を主な専門とする。『新修神戸市史』をはじめ多数の自治体史を執筆。1995年の阪神・淡路大震災以降、大規模自然災害時の被災歴史資料の保全と災害（震災）資料の保存及び活用を展開。歴史文化研究者や博物館員、郷土史研究者からなる大規模災害時の歴史資料保全を進めるボランティア団体である歴史資料ネットワークの代表委員。

神戸大学では、大災害時の地域歴史資料の保全及び、消滅の危機にある地域歴史文化の基礎である地域歴史遺産の保存活用、さらに災害に強い地域文化形成のための支援を行う人文学研究科地域連携センターの運営に携わる。現在、地域連携担当の理事として、大学と自治体・地域団体等との連携を担当。

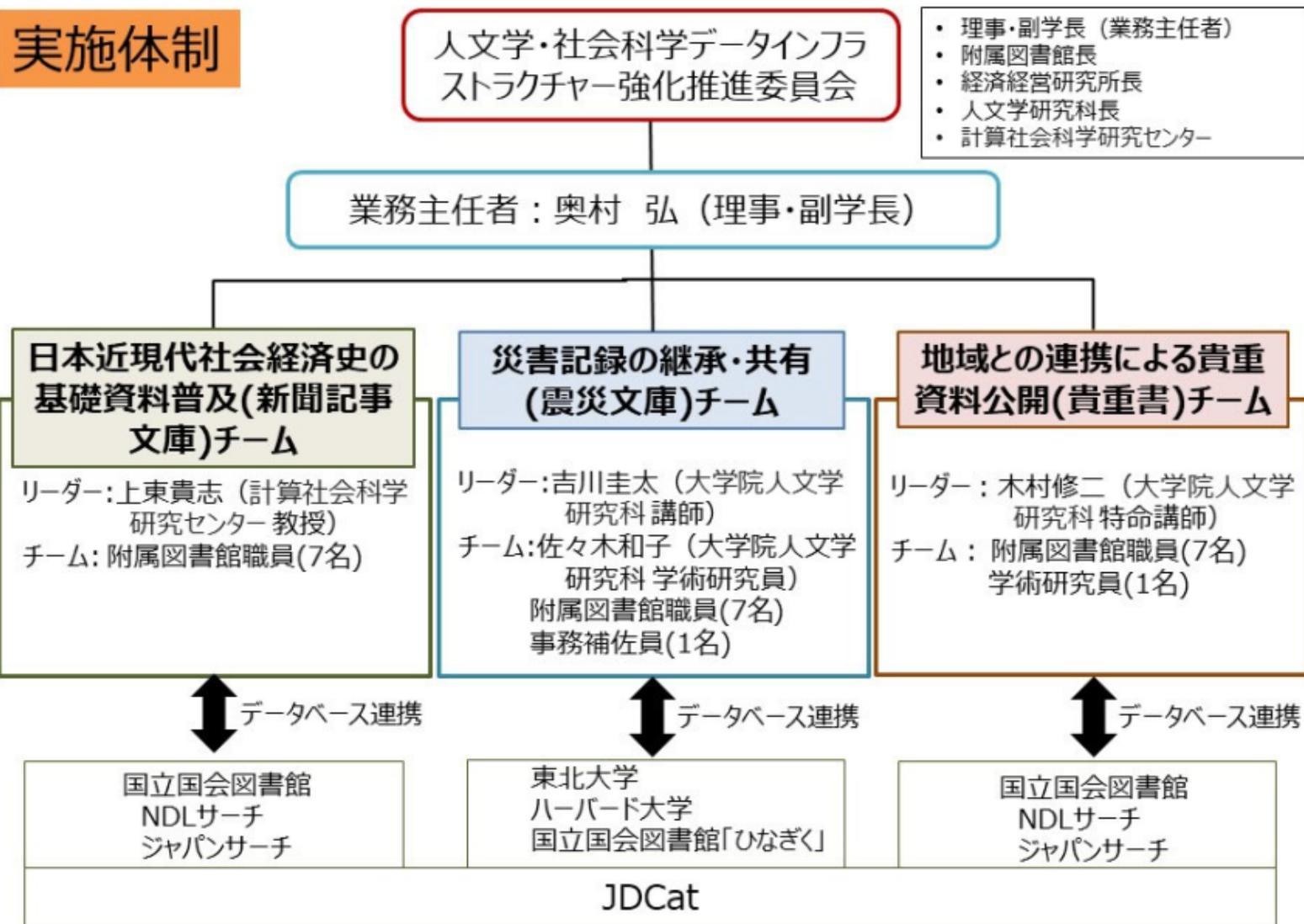
「人文学・社会科学データインフラストラクチャー強化推進委員会」は、奥村弘理事・副学長を委員長とし、附属図書館長、人文学研究科長、経済経営研究所長、委員長が委嘱する教員、附属図書館の事務職員等で構成する。
この委員会が本委託業務の計画・進捗状況・予算等の管理運営を行い、デジタルアーカイブの共有・利活用のための総合的なシステム構築をはかる。

ア) 「日本近現代社会経済史の基礎資料普及(新聞記事文庫)チーム」では、経済経営研究所兼計算社会科学研究センターの上東貴志教授を中心に、附属図書館職員と協働する。
上東教授は、新聞記事文庫の資料を利用した研究も手掛けており、文庫内の状況に精通していることから、チームリーダーに適任である。

イ) 「災害記録の継承・共有(震災文庫)チーム」は、大学院人文学研究科の吉川圭太講師をリーダーに、同研究科の佐々木和子学術研究員、新たに雇用する事務補佐員及び附属図書館の職員と協働する。
吉川講師、佐々木学術研究員は従来から震災文庫の活動にコミットしており、災害資料の取り扱いや資料を使った研究発表も多く、チームの主導的役割を果たすものとする。
震災文庫の登録予定資料には、個人情報や人権にかかわる情報が含まれる資料が多くあるため、公開可否の検討を行う。
また、位置情報の決定に関して、特定方法の検討・研究も行う。

ウ) 「地域との連携による貴重資料公開(貴重書)チーム」は、大学院人文学研究科の木村修二特命講師と新たに雇用する学術研究員を中心に附属図書館の職員と協働する。
木村講師は、従来から当館所蔵の貴重書・特殊コレクションの調査・分類等に携わっており、当館所蔵の郷土資料にも造詣が深い。
登録予定の貴重書は12,000点に及び、状態や内容を一点ずつチェックする必要があることから、学術研究員を雇用し、作業の迅速化を図る。

実施体制



令和5年度

(1) 取組ア：JDCatとの連携

デジタルアーカイブのメタデータはすでにOAI-PMH（JPCOARスキーマ1.0.2）に対応しているため、システムの大きな改修は不要である。従って、JDCatからのハーベストを開始できるよう、メタデータのマッピング等の調整を行う。併せてJDCatメタデータスキーマと統制語彙に従ったメタデータを充実させる。

(2) 取組イ：他機関のデータ受入や受託

本学が他機関や個人より受託した資料について、電子化・メタデータの作成等、データの搭載を進めるための準備を行う。特にサンテレビジョン撮影取材映像（約1,600件）については、寄贈者であるサンテレビジョンと登録に向けた打合せを行い、メタデータの作成を中心に準備作業を進めることにより阪神・淡路大震災関係のデータの集積と活用を実現する。その際、肖像権については「肖像権ガイドライン」を元に検討し、公開の可否を決定する。寄託写真データ（約6,000枚）については、位置情報の決定・メタデータの作成等の準備作業を進める。

(3) 取組ウ：データ利活用の促進

●戦前の新聞記事の翻刻（テキスト化）

新聞記事文庫の紙面画像36万件については電子化済みであるが、記事本文の翻刻（テキスト化）も同時に進めているところである。職員に加え、外注によっても翻刻を進めてきているが、翻刻を終えた後に校正を行う必要がある。翻刻をできるだけ速やかに進め、校正に注力できる状況にしていきたい。令和5年度は3,500件の記事の翻刻を外注する。また、事務補佐員2名を雇用し、校正作業を進める。また、研究者と対話する機会を設け、新聞記事文庫等のデータの研究への利用・活用に関する検討を開始する。

●英語キーワードの付与

本学デジタルアーカイブの多くの資料は日本語でのみ検索可能である。そこで、全資料に対して英語及び日本語のキーワードを追加することで、海外からの可視性を向上させ、データの一層の利活用を図る。特に古文書や写真データについては、日本語が読めない利用者にとっても利用可能性が高いことから、英語キーワード付与の意義は高い。令和5年度は、英語キーワードの付与方法について検討を行う。

●位置情報の付与

デジタルアーカイブは、メタデータに位置情報を記録することができ、地図上に該当記事の件数等を表示させることが可能である。この機能を利用して、資料を地図上で検索・利用することが可能となっている。震災文庫のデータ25,000件や未受入の写真データ6,000件について、緯度経度の情報を追加することでデータ解析のための要素を拡充する。

●地域資料の電子化

電子化されていない郷土資料12,000点について、調査・状態チェック等を行い、電子化する対象資料を決定する。メタデータを付与して公開することにより、他のデータベースとの横断検索等の活用の可能性を拡げる。また、翻刻（テキスト化）についても検討し、有用度の高い資料から翻刻の実施方法等について検討する。

(4) 取組キ：中核機関との連携

中核機関が実施する定期的な連絡会議へ参加し、中核機関及び他の拠点機関との連携、情報共有を密に行う。例えば、デジタルアーカイブのメタデータ項目の記載や、データの保存・管理等の運用、利活用推進のための取り組み、一般公開できない資料に関する対応（機関としての方針策定や、制限公開を行うにあたっての運用等）等に関して、中核機関と情報交換を行う。また、他機関への広報等を行う。

神戸大学附属図書館震災文庫でのサンテレビジョンの映像資料の公開

神戸大学附属図書館震災文庫は、阪神・淡路大震災直後から生み出された資料・図書類を網羅的に収集・公開。さらにデジタルアーカイブとしてウェブ上で公開

2023年11月 収集56929件 電子化公開12718件

2021年1月14日から、株式会社サンテレビジョンが撮影した阪神・淡路大震災関連映像（340件・うち館内限定28件）と、作成した「阪神・淡路大震災」（1995年6月29日制作）を公開

公開にあたり、デジタルアーカイブ学会による「肖像権ガイドライン—自主的な公開判断の基準」を参考に、サンテレビ、震災文庫、神戸大学大学院人文学研究科の関係者が定期的に会議をおこない、震災映像の公開の判別をおこなった。

その判別に基づき、2021年1月、2022年1月、同年6月、2023年1月、2024年1月の5回、震災文庫デジタルアーカイブで公開。1月18日までの公開作業が終了。現在19日分の検討作業が進められている。



カテゴリ



ランキング



地図検索画面へ

震災文庫デジタルギャラリー

震災文庫デジタルギャラリー
+ 写真 [7930]
+ 動画 [536]
+ 音声 [52]
+ 図書 [514]
新聞・広報誌紙 [348]
パンフレット [169]
一枚もの [2997]

動画 (536)



サンテレビジョン (341)

兵庫県の地元テレビ局サンテレビジョンより提供いただいた、同局が撮影・制作した映像を保存・公開しています。

「阪神・淡路大震災」(1995年6月29日制作 19分06秒)

大都市を襲った直下型地震の猛威と被害を、教訓として広く防災意識の高揚を図るため、サンテレビジョンが制作したものです。

「阪神淡路大震災 素材テープ映像」

同社のカメラマンが被災地での取材時に撮影し、当時の震災報道にて素材となったビデオテープに収録された大量の映像の一部です。場面ごとに数秒から数分程度に分割して、撮影場所・時刻・内容等のデータと共に公開しています。

公開にあたり、デジタルアーカイブ学会が作成した「肖像権ガイドライン」(PDF: 650KB)を参考に、本学人文学研究科地域連携センターが確認し、サンテレビジョンと協議を行っています。その判断に基づいて映像を公開致しますが、もし問題がございましたら、お手数ですが、ご一報ください。

この確認と協議により、インターネットでの公開が適切ではないと判断された映像につきましては、震災文庫の室内設置端末限定で公開しています。

なお、サンテレビジョンと神戸大学は包括連携協定を締結しており、この映像公開は協定における取組の一環でもあります。

肖像権ガイドラインとは

肖像権は、法律上で明文化された著作権と異なり、裁判例を積み重ね、認められてきたもの。

権利の対象や保護の射程はすべて解釈に委ねられる。最高裁判所はその判例で、写真撮影およびその公表により、本人の「人格的利益の侵害が社会生活上受忍の限度を超える」ものかどうか検討

①被撮影者の社会的地位、②被撮影者の活動内容、③撮影の場所、④撮影の目的、⑤撮影の態様、⑥撮影の必要性の6要素を「総合考慮」して適法性を判断

佐々木和子人文学研究センター学術研究員によるデジタルアーカイブ学会による肖像権ガイドラインの導入 画像から映像へ

(佐々木和子「阪神・淡路大震災映像への肖像権ガイドライン適用の実践；神戸大学震災文庫での公開にむけて」『デジタルアーカイブ学会誌』2023年7号)

ガイドラインの特徴

ステップ1「知人が見れば誰なのか判別できるか」どうかを判別 判別できない⇒公開 判別可能なものステップ2へ

ステップ2「公開について同意があるか」を判別

同意があるもの⇒公開 同意がないものについては、ポイント計算によって、公開レベルを判別へ

ステップ3「公開によって一般に予想される本人への精神的な影響をポイント計算」を適用。

ポイント計算では、最高裁の示す「総合考慮」6要素に基づいて項目ごとに0点以上は公開可、以下マイナス点については、公開範囲の限定やマスキングによって対応

資料3 公開方法

【肖像権ガイドライン】

合計0点以上：公開に適する

－1 ～－15 ：公開範囲限定、マスキング

－16 ～－30 ：**嚴重なアクセス管理、マスキング**

－31 以下 ：マスキング

【サンテレビ震災映像公開検討会】

→ インターネット公開（原則編集せず）

震災文庫での館内限定公開（原則編集せず）

*データコピー不可の館内専用PCで閲覧

*特別利用についてはサンテレビが個別に判断

資料1 デジタルアーカイブ学会「肖像権ガイドライン」ポイント計算リスト（公式版抜粋）

1 被撮影者の社会的地位

公人（+20）、一般人（±0）、16歳未満の一般人（-20）

2 被撮影者の活動内容

2-1 活動の種類：公務・公的行事（+10）、歴史的イベント（+20）、社会性のある事件（歴史的とまでは言えないもの）（+10）、センシティブなイベント（-5）

2-2 被撮影者の立場：業務・当事者としての参加（+5）、私生活・業務外（-10）

3 撮影の場所

公共の場（+15）、自宅内・避難所内（-10）、病院・葬儀場（-15）

4 撮影の態様

4-1 写り方：多人数（+10）、特定の人物に焦点をあてず（+10）、大写し（-10）

4-2 撮影状況：承諾の意思表示（+5）、撮られた認識なし（-10）、拒絶の意思（-20）

4-3 被写体の状況：遺体・重傷（-20）、一般的に羞恥をおぼえる状況（-5）

5 写真の出典

刊行物等で公表された写真（+10）、代替性のない写真（+10）、遺族が存在しない故人に関する写真（+30）

6 撮影の時期

撮影後30年経過（+20）、撮影後20年経過（+10）

資料2 サンテレビ震災映像公開検討会（3者会議）での検討結果

	検討内容	検討結果	ガイドラインの元点数
1 社会的地位	16歳未満の一般人	減点せず(±0)	-20
2-1 活動の種類	阪神・淡路大震災	歴史的イベント(+20)	
2-2 被撮影者の立場	消防団員	業務(+5)	
	救助している市民(共助)	減点せず(±0)・要検討	業務外(-10)
3 撮影の場所	スーパー等の中	公共の場(+15)	
	倒壊家屋での救助	自宅内(-15)	
	葬儀場	個別に判断(合同葬儀など)	
	災対本部など官公庁内	その他(撮影許可を得た場所)(+5)	
4-2 撮影状況	取材に応じている人	積極的に加点(+15)	承諾意思(+5)
4-3 被写体の状況	救出者・負傷者	一般的に羞恥心を覚える状況(-5)	
5 写真の出典	代替性のない写真	個別に判断・要検討	
6 撮影の時期	阪神・淡路大震災	独自に時の経過を勘案(+15)	20年経過(+10)
その他(肖像権外)	救出者等をフルネームで呼ぶ声、犠牲者氏名の書き出し → 要処理(要検討)		
	衝撃の強いシーン(血痕、生き埋め等) → ホームページ上で注意書き		
	取材車内で流れる他局ラジオ音声 → 問題なし		

参考) 佐々木和子「阪神・淡路大震災映像への肖像権ガイドライン適用の実践；神戸大学震災文庫での公開にむけて」

SUN-TV

神戸大学附属図書館
震災文庫

位置情報	
メタデータID	0100475713
資料種別	video
タイトル	昭和筋商店街 長田区腕塚町5丁目と久保町5丁目間の道 ショウワスジショウテンガイナガタクウテツカチョウ5チョウメトクボチョウ5チョウメノアイダノミチ
作成者	作成者名 井田和秀 所属機関 所属機関名 サンテレビカメラマン 作成者名 [サンテレビ制作]
シリーズ名	阪神・淡路大震災関連映像 ハンシンアワジダイシンサイカンレンエイソウ
収録物名	阪神淡路大震災 素材テープ1703 ハンシンアワジダイシンサイソサイテープ1703
巻	1703-19
出版者	[サンテレビ]
発行日	1995-01-17
内容記述	昭和筋商店街を東から西の方向に進む/奥に火の手/走って火元に近づく/噴き出す火/「ハマダカグチ」の看板/まるは市場の看板が見える/天井から落ちてくるがた男性の声「こっちもあかんわ。移るわ。」
注記	動画ファイル
権利情報	Copyright (c) SUN-TV 二次利用に関する問い合わせ先 サンテレビジョン : 078-360-0330

花房豊店店主消防団員「停電が一時通電してそれがショートして燃え上がった」（インタビューあり）



SUN-TV

神戸大学附属図書館
震災文庫

SUN-TV

神戸大学附属図書館
震災文庫

神戸市内
①東灘区

竹下徳美子 (57才)

堀山洋 (13才)

三浦孝子 (4才)

山崎 LT (A348) (41才)

三好 隆雄 (2才)

三好 隆雄 (2才)

中央区

(母)

生田 富田 合

藤見 和子 (45)

大崎 虎松 (80)

川崎 幸 (95才)

四村 晃信 (61)

サンテレビジョン映像資料の特質　メタデータの充実のために

①テレビ局のカメラマンがとった映像

1995年当時の最高水準の映像　テレビでの公開を意識した映像
地元テレビ局に対する住民の信頼

②実際に報道に使われたのは極めて少数

これまでになかった多様な視点を見いだせる　新たな研究へ
音声の存在による状況認識の拡大

③映像資料公開のプロセス　何がパブリックなのかを深化させる取組

④多様な震災資料の一部　立体的な震災像形成の必要性

紙資料・写真・聞き取り